

公益社団法人日本地球惑星科学連合
2025 年度(令和 7 年度)第 3 回理事会議事録

1. 開催日時 2025 年 9 月 11 日(金)9:00-12:40
2. 開催場所 Zoom によるオンライン会議
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 14 名 (定足数 11 名)
4. 議 長 理事 ウオリス サイモン
5. 出席役員
理事 ウオリス サイモン
理事 小口 高
理事 阿部 なつ江
理事 河宮 未知生
理事 高橋 幸弘
理事 沖 大幹
理事 成瀬 元
理事 道林 克禎
理事 和田 浩二
理事 大谷 栄治
理事 小口 千明
理事 田近 英一
理事 長谷川 直子
理事 村山 泰啓
監事 鈴木 善和
監事 春山 成子
監事 松本 淳

オブザーバー

大気水圏科学セクションプレジデント 佐藤 薫
大気水圏科学セクションバイスプレジデント 野中 正見

情報システム委員会委員長 興野 純
ダイバーシティ推進委員会委員長 若狭 幸
国際コーディネーター 末廣 潔

6. 議事内容

審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

- ・定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議した。これを承認した。

第 2 号議案 新委員承認の件

- ・環境災害対応委員会の新入会員を審議した。これを承認した。

第 3 号議案 教育検討委員会規則改定の件

- ・教育検討委員会規則の改訂を審議した。これを承認した。

第 4 号議案 公益社団法人日本地球惑星科学連合 和達賞（固体地球科学セクション賞）審査委員承認の件

- ・和達賞の審査委員を審議した。これを承認した。

第 5 号議案 大会における招待講演者の扱いに関するガイドライン改定の件

- ・大会における招待講演者の扱いに関するガイドラインの改訂を審議した。これを承認した。
- ・セクション主催のセッションの講演についてはあらかじめセクション予算に計上することで支出が可能であるという説明があった。

第 6 号議案 A O G S 2026 LOC 承認の件

- ・福岡開催となる AOOGS2026 大会の宣伝や準備について AOOGS より依頼があった。協力体制について両会の会長が話し合いを行った。AOOGS2026 の国内 LOC メンバーが全員 JpGU 会員であることを確認し、JpGU 代表を兼務するという案を作成し、審議した。メンバーを資料の通り承認した。

第 7 号議案 ハイブリッド大会参加者多様化促進事業積立金の使用に関する TF 設置の

件

- ・『ハイブリッド大会参加者多様化促進事業積立金の使用に関する TF』の設置を審議した。これを承認した。

第 8 号議案 システム開発業者選定の件

- ・提案依頼書にもとづいて 4 社からの提案があり、提案内容プレゼンテーションをそれぞれ行った。これをもとにシステムリプレイスタスクフォース他関係者により審査を行った。4 社の提案内容を開発・運用・保守体制等の観点から評価し、順位をつけた。
- ・タスクフォースからの順位を含む報告をもとに審議した。評価 1 位の Ciel Zero 社に決定した。

第 9 号議案 その他

- ・道林理事より緊急動議があり、J p G U 各賞の募集期間について審議した。提案の通り、今回の連合会長賞、国際貢献賞、西田賞、フェローの候補者募集期間を 10 月 1 日から 11 月 30 日、審査期間を 12 月から 3 月、承認を 3 月の理事会、表彰式を 5 月とすることを承認した。
- ・海外では 1 年を通じて募集期間を設けている例があり、その方が応募が容易であるという指摘があった。今回、例年よりかなり募集期間を長くとったので例年よりは緩和されているはずであるが、そのようなやり方も今後検討していきたいという説明があった。

報 告 事 項

1. ウオリス サイモン代表理事 職務報告

- ・鈴木弁護士より、故西田篤弘フェローの遺言に JpGU に対して多額の寄附金があることが伝えられた。これまで西田フェローからの寄附金は地球惑星科学振興西田賞に用いることが指定されていたが、今回の寄附金には使途が指定されていない。
- ・これまでの寄附金と同様、地球惑星科学振興西田賞を使途として受け入れることを議論し、了承された。
- ・2026 年大会の Plenary Talk の謝金や旅費については規定の規則を上回る支出をする必要がありそうなので、次回の理事会で審議する。

2. 小口 高理事 職務報告

- ・AGU との協力について職務報告があった。

3. 阿部 なつ江理事 職務報告

AGU Meeting 25 (New Orleans) の件について報告があった。

- ・会期が 4.5 日に短縮された。
- ・Plenary Session が 5 件から 3 件に減少した。
- ・現地参加できない人のための Local Hub システムを導入するというアナウンス（8 月 26 日付け AGU 会員向け一斉メール）があった。
- ・abstract の投稿数が少し減ったため、現地参加者数の減少が見込まれるので、予算削減策や遠地参加システムを検討しているとのこと。

JpGU-AGU Joint Meeting 2026 のオンライン参加者数にも影響があるかも知れないため、注視していく。

4. 河宮 未知生理事 職務報告

- ・AGU とのジョイント大会に向けてスポンサー制度に関する会合を行った。例年の JpGU のスポンサー制度を基本としたものを検討している。

5. 原田 尚美理事 職務報告

- ・環境災害対応関連の活動について事務局より代理で報告があった。

6. 高橋 幸弘理事 職務報告

- ・環境経済政策学会の学会誌に寄稿した。
- ・人口知能学会とのセッションの準備を進めている。合同研究会でのコラボを予定している。
- ・ブリスベンで行われたアイガルス (IGARSS) において、EOA(Earth Observation Australia)のパネルディスカッションに参加した。これに関してセクションを通じて、オーストラリアとの交流に関して調査を行った。

7. 道林 克禎理事（総務担当）職務報告

○総務関連の報告があった。

- ・選挙状況について報告があった。
- ・事務局より、事務局への連絡は office@ のグループメールを使用してほしいというお願いがあった。
- ・従来より用いているイラストの『チワクくん』を登録商標となるように申請した。これにより柔軟な活用が可能になった。

8. 成瀬 元理事（財務担当）職務報告

○財務関連の報告があった。

- ・来年度予算作成の準備をしている。後程来年度予算要求について委員会セクションに依頼するので協力してほしい。
- ・科学研究費助成研究成果公開促進費（研究成果公開発表(C)）に応募するため準備を進めている。
- ・収支相償についてあらためて説明があった。従来黒字決算とならないような運営を行っているがこれまで議事録に記載がなかったため、今後はきちんと議事録に残してゆく予定である。

9. 和田 浩二理事（大会運営担当）職務報告

○大会運営に関して報告があった。

- ・主要言語は英語とする。Jセッションの場合、スライドは英語とし、日本語併記可。口頭発表や質疑応答などの口頭によるコミュニケーションは英語または日本語のいずれでも可とする。
- ・プレナリートークを平日のランチタイムに開催する。基本的には他のイベントは同時開催は避ける。三宅賞レクチャーについては検討する。
- ・懇親会企画として、Networking Get-Together(NGT)を 19：00～20：00 に展示ホールで開催することを検討する。参加費を有料としてビール等を提供し、気軽な交流を促進する。International Mixer Luncheon に代わる企画とのコラボとともに検討している。NGT とは別に 28 日に懇親会も検討している。
- ・ハイブリッド大会参加者多様化促進事業積立金の使用に関する TF において、発展途上国居住者支援策を検討する予定である。12 月の AGU Meeting までに整備するのが望ましい。
- ・今後のスケジュールが紹介された。9 月 17 日にセッション提案受付を開始し、10 月 11 月に採択会議、編成会議を行い、11 月 26 日に開催セッション一覧の公開を予定している。
- ・大会参加登録料の値上げ、通常投稿料値上げを予定している。
- ・年会費の値上げについて提案があった。

10. 沖 大幹理事（グローバル戦略担当）職務報告

○グローバル戦略関連の報告があった。

- ・セクションプレジデント、関連学協会長あてに発出予定の文章の紹介があった。

11. 広報普及委員会活動報告（田近理事）

○広報普及関連の報告があった。

- ・JGL8月号を発行した。現在11月号の編集を行っている
- ・高校生のための冬休み講座を12/26に開催することを決定した。

12. 環境災害対応委員会報告（小口 千明理事）

- ・9月6日7日『ぼうさいこくたい』に参加し参加学協会の協力のもとポスター発表を行った。
- ・大会へのセッション提案を準備している。

13. ダイバーシティ推進委員会活動報告（堀利栄理事）

○代理で若狭委員長より報告があった。

- ・夏の学校2025へ參加した。
- ・大会へのセッション提案を準備している。

14. 教育検討委員会活動報告（宮嶋敏理事）

- ・事務局より代理で報告があった。
- ・第18回国際地学オリンピックは8月8日から16日まで中国・済寧で開催され、日本代表は4名全員が銀メダルを獲得した。2026年の第19回国際地学オリンピックの開催予定国はイタリアである。2027年の国際地学オリンピックは、2027年8月22日～28日日本（くにびきメッセ）開催が決定した。JpGUの格別のご協力をいただきたいというお願いがあった。
- ・第21回国際地理オリンピックは7月27日～31日にタイ・バンコクで開催された。日本代表は1名が銀メダルを獲得した。

15. 情報システム委員会活動報告（村山担当理事）

- ・システムリプレイス関連の活動報告があった。
- ・大谷理事よりデータリポジトリ関連の報告があった。webページの改訂を行った。

16. ジャーナル関連活動報告（掛川理事）

○事務局より代理で報告があった。

- ・編集長会議を開催し、SPEPS特集号の受入審査基準について検討し、チェックリストを整備した。また、出版社（Springer）からの提案について議論し、2026年度論文掲載料(APC)の据え置きを了承し、出版論文の著者権のオプション追加については条件付きで同意する。
- ・投稿・出版状況は順調で、昨年同時期と比較して、投稿数で1.4倍、出版数で1.5倍となった。また、新たに地球生命分野と宇宙惑星分野のSPEPS特集号が投稿受付を

開始する。

17. 頸彰委員会活動報告（道林理事）

- ・頸彰関連の活動報告があった。各賞の募集開始準備を進めている。

18.その他（セクション）

・固体地球惑星科学セクションより和達賞の準備状況について報告があった。募集要項や審査委員会設置要綱が提示された。異論等は特になかった。

・長谷川理事よりジオエシックス関連の活動報告があった。行動規範に加筆を検討していることが報告され、その場で意見を募った。

検討の結果、問題となる行為の例「対面あるいはオンラインでの脅迫やストーカー行為」に「他者を著しく不安・不快にさせる行為」を加筆する。問題が起った際の対応のなかに「(違法行為や条例違反行為と判断した場合は警察に連絡します)」を加筆する。

議長は以上をもって、すべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後12時40分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

2025年9月12日

出席理事 ウォリス サイモン 印

出席理事 小口 高 印

出席理事 阿部 なつ江 印

出席理事 河宮 未知生 印

出席理事 高橋 幸弘 印

出席理事 沖 大幹 印

出席理事 成瀬 元 印

出席理事 道林 克禎 印

出席理事 和田 浩二 印

出席理事 大谷 栄治 印

出席理事 小口 千明 印

出席理事 田近 英一 印

出席理事 長谷川 直子 印

出席理事 村山 泰啓 印

出席監事 鈴木 善和 印

出席監事 松本 淳 印